

知っておきたいこと

《家族や大切な人との連絡方法(安否情報の確認方法)》

○災害用伝言ダイヤル(171)



○災害用伝言板(スマホ・携帯電話)

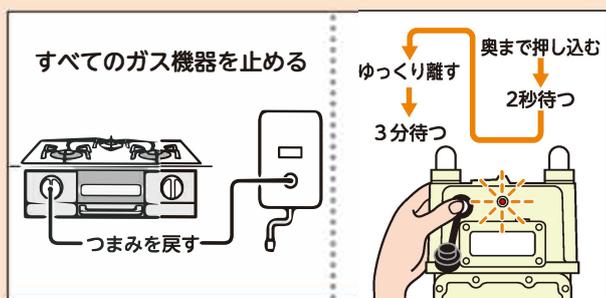
大地震などの災害が発生したときに、携帯会社各社のポータルサイト上に開設され、伝言の登録・確認ができるサービスです。

- NTTドコモ
<https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>
- au
<https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengen/>
- SoftBank
<https://www.softbank.jp/mobile/service/dengen/boards/>
- Y!mobile
<https://www.ymobile.jp/service/dengen/>

※上記のほか、「災害用伝言板(Web171)」、「J-anpi」などの方法もあります。
 ※毎月1日・15日、正月三が日、防災とボランティア週間(1月15日から21日)、防災週間(8月30日から9月5日)が体験利用日ですので、家族や友人など使い方をご確認ください。

《ガスメーターの復帰方法》

震度5程度以上の揺れを感知したときに、ガスメーターが自動的にガスを止めます。ガスメーターの赤ランプが点滅していたら、以下の手順で復帰しましょう。



《感震ブレーカーをつけましょう》

感震ブレーカーは、大地震が発生した際に電気を自動的に止める器具です。不在時や、避難する際にブレーカーを切る余裕がない場合などに、電気火災を防止する有効な手段です。

地震を感知してから電気を止めるまでに数分間の猶予を持たせるタイプなど様々な種類があります。製品ごとの特徴を踏まえ適切に選びましょう。また、地震で急に電気が止まっても困らないための照明対策も併せて行いましょう。

避難を行う際は、電気火災を防ぐため、ブレーカーを切って避難を行うようにしましょう。



《高層住宅等における対策》

マンションなどの高層住宅は、大地震時の停電によりエレベーターやトイレが使用できなくなることもあります。一方で、頑丈な建物が多く、災害時にも自宅に住民が継続するケースも多いため、在宅避難に備えて、備蓄等の用意を行うことが重要です。マンションの特性を踏まえた対策については右の二次元コードからリーフレットを確認ください。



《帰宅困難者対策》

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、首都圏において多くの鉄道等が運行を停止した結果、約515万人(内閣府推計)に及ぶ帰宅困難者が発生しました。そこで東京都では、「東京都帰宅困難者対策条例」を制定し、従業員を一定期間事業所内に待機させる「一斉帰宅の抑制」などを事業者の努力義務として定めました。

一方、各従業員においては、待機後の徒歩帰宅に備え、運動靴の準備や帰宅経路の確認などを行きましょう。

《特に重要なポイント》

- 一斉帰宅の抑制(従業員はむやみに移動を開始しない)
- 事業所内待機のための備蓄の確保(3日分の食料・飲料水、毛布等の備蓄)